

令和5年度自己評価報告書

1 学校の教育目標の達成状況（概要）

本校の教育目標は、「夢をいだき 心豊かに 学び合う児童の育成」である。この目標を達成するための望ましい児童像「深く学び 希望を胸に 明るいあいさつ 元気な子」を目指し、取組の工夫と改善に努めてきた。

(1) 「深く学び」「希望を胸に」、かしこく学び合う子の育成

	できた	だいたいできた	あまりできなかった	できなかった
授業中、教師や友達の話最後までよく聞いて学習するよう指導しているか。	20.0%	75.0%	5.0%	0.0%
児童がよく分かるよう、指導方法を工夫したり、まとめ・振り返りを行ったりしているか。	25.0%	60.0%	15.0%	0.0%
児童に家庭学習の習慣が身に付くよう、具体的に働き掛けているか。	21.1%	57.8%	21.1%	0.0%

今年度は、「ともにつながり、深く学び合う児童の育成」を研究主題にして、①主体的・対話的で深い学びにつながる授業づくり、②自分・仲間・教材とつながるための1人1台端末の効果的な活用について研究を進めた。

日々の授業や研究授業で発問や問い返し等の工夫を行った。教師がどのように発問をするか考え実践していくことで、児童の見方・考え方を広げたり深めたりすることができ、児童が主体的に学習に取り組み、教師だけでなく友達の意見にも耳を傾けるようになった。

また、児童が自分の意見を伝え合う場面において1人1台端末を活用するよう、授業展開を考え実践した。授業研究を通して、具体的な実践例を紹介し、共有することで活用の機会が増え、児童の操作スキルも高まってきた。

(2) 「明るいあいさつ」を基本に、なかよくつながる子の育成

	できた	だいたいできた	あまりできなかった	できなかった
児童が自ら進んで挨拶ができるよう、教職員自ら挨拶しているか。	76.2%	19.0%	4.8%	0.0%
児童が友達を大切に、仲良くできる学級づくり・授業づくりに取り組んでいるか。	36.8%	63.2%	0.0%	0.0%

今年度も「あいさつ日本一」の学校を目指し、年間を通じて、教職員による挨拶指導や生活委員会の挨拶運動などを行った。朝は正門に学校長が立ち、児童と地域の方に挨拶をしている。生活委員会が挨拶調べをする中で、自分たちから明るく気持ちの良い挨拶をすることで、児童の意欲が高まっているものの、まだまだ十分とは言えない。

毎月、悩み調査を実施している。調査後、気になる児童にはすぐに教育相談を実施した。また、生徒指導上の問題について、必要に応じて教職員で情報を共通理解し、全校で対応した。

(3) 心身ともに、たくましく「元気な子」の育成

	できた	だいたいできた	あまりできなかった	できなかった
児童の規範意識を高めるために、きまりの大切さを伝え、児童の心に届く指導をしたか。	38.1%	57.1%	4.8%	0.0%

健康の保持や体力向上を目指して、健康教育・体力づくりを推進したか。	16.7%	72.2%	11.1%	0.0%
登下校や校内での事故防止に向けた取組ができているか。	40.0%	40.0%	20.0%	0.0%
児童の個々の状況に応じて良さを積極的に見付け、認め、褒めているか。	42.9%	52.3%	4.8%	0.0%
児童に読書の習慣が定着するよう働き掛けているか。	19.0%	62.0%	19.0%	0.0%

基本的な生活習慣を定着させ、規範意識を育むために、「もじはあか」をキーワードに、「黙動」「時間を守る」「履物をそろえる」「気持ちの良い挨拶」「感謝の心を持つ」に全校で取り組んだ。

ハートなんでも相談員やスクールソーシャルワーカーが、各教室の様子を見たり、給食を一緒に食べたりして、児童が相談しやすい環境を整えた。また、指導が困難な児童に多くの教職員が関わることができるように児童支援の体制を整えた。

2 主な取組の課題と改善

(1) 「深く学び」「希望を胸に」学び合う子の育成

- ・ 児童に身に付けさせたい力をより明確にした上で学習展開を考えることが必要である。そうすることで焦点化を図り、課題に対する一人一人の考えを深めさせていくことで主体的な学びが実現し、その考えを基に対話的な学びへとつなげていくことが求められる。
- ・ 1人1台端末の効果的な活用について研究を進めてきたが、児童が使用する上での学習規律の確立や操作スキルの向上など、日常的に使用するには課題が多い。また、効果的な活用場面を考えるなど、学習効果を上げるための手段として用いられるような研修を重ねていく。

(2) 「明るいいあいさつ」を基本に、なかよくつながる子の育成

- ・ 挨拶ができている児童が、学年が上がるにしたがって減少する傾向がある。教職員が模範を示すとともに、挨拶の大切さや時と場に応じた挨拶について具体的に話していく。
- ・ 悩み調査や教育相談などの継続と改善を通じて、いじめや非行につながる問題行動の早期発見に努めるとともに、組織力を生かして未然予防・早期問題解決に取り組む。

(3) 心身ともに「元気な子」の育成

- ・ 基本的な生活習慣と規範意識をより定着させるために、「吹揚の子のきまり」を教職員や保護者、児童がいつでも確認できる状態にする。また、「もじはあか」のキーワードを意識付けるために月ごとに目標を絞って取り組ませる。
- ・ 自分で自分の身を守るための安全意識を高め、的確な判断力や行動力を身に付ける計画的な安全指導やより実際の場面を想定した指導を行うとともに、児童の健全育成のために関係機関との連携を図っていく。

3 その他

今年度、新型コロナウイルス感染症が5類へ移行したため、これまで制限してきた活動を少しずつ再開し、児童たちが生き生きと活躍する場面が増えてきた。業務改善については、月案に課題や提案を書き込む欄を設け、できることから実践している。教職員の連携を図ることで、全教職員がワークライフバランスを取りながら働き、心身ともに健康な姿で児童への指導ができるように努めたい。